

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人旭川医科大学

1 全体評価

旭川医科大学は、地域医療を担う人材の育成を設置の原点とし、教育・研究・医療・社会貢献等の更なる発展を目指している。第3期中期目標期間においては、グローバルな視点を持ち国際社会でも活躍できる医療人の養成、基礎研究を臨床応用・実用化につなげイノベーション創出を果たすための研究環境整備と研究成果の社会還元、学長のリーダーシップの下での安定した財務基盤の構築を主な目標としているほか、他機関との産学官連携や医療機能連携の推進・強化、外国人の受入れや国外への情報発信の推進、高度急性期医療と先進医療の両立、多職種協働による質の高い医療提供体制の構築等を基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、地域包括医療を支援するための取組や、トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）を推進するとともに、教育機能強化や講座活性化のための効果的な人員配置を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 教育機能強化や講座活性化のための効果的な人員配置の実施

教育機能強化のため、教育センターに新専門医制度及び医学教育分野別評価を担当する教授を追加配置することで、18基本領域のプログラムの申請を完了している。また、講座活性化のため、複数准教授制を導入し、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座及び内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）に准教授を各1名増員することで、優秀な人材の確保や流出の防止を図っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 臨床研究を推進する倫理審査委員会の認定

被験者保護や研究の質確保のため、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき厚生労働省が実施する倫理審査委員会の認定において、旭川医科大学倫理委員会が北海道で初めて認定されており、臨床研究の推進に向けた体制整備が図られている。

○ 地域包括医療を支援するための取組の推進

道北の初山別村の住民支援を検討する「ささえ愛システム構築事業」の検討委員として看護学科教員が参画するとともに、初山別村の住民に対する聞き取り調査に看護学科3年次生10名が参加している。調査結果等を踏まえ、「地域包括ケアシステム構築に向けた今後の課題として、住民が地域で安心して暮らし続けるため最低限の医療資源を確保することが必要であること、及び互助の強みを生かした住民主体の街づくりが重要であること」との提言を行うなど、地域包括医療支援を推進している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）の推進

看護部、薬剤部、臨床検査・輸血部所属治験コーディネーター（CRC）の臨床研究支援センターへの配置換え等により、同センターの機能強化を図るとともに、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が事業主体となっている「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」の重点支援研究として採択されている「長鎖ポリリン酸の潰瘍性大腸炎に対する臨床試験」を含む3件の臨床研究について、臨床研究支援業務を開始するなど、トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）を推進している。

(診療面)

○ 排尿ケアチームによる効率的な医療の提供

排尿ケアに係る専門的知識を有した医師、看護師及び理学療法士による排尿ケアチームを設置し、各診療科の医師が従来行っていた尿失禁、尿閉等の下部尿路機能障害の患者に対する排尿誘導等の治療をはじめ、下部尿路機能回復のための包括的なケアを同チームが一元的に担う（設置から半年間の介入実績：79件）ことにより、医療の質向上と医師の負担軽減を図っている。

○ ICT活用による急性大動脈疾患治療の迅速化

総務省が進める「医療・介護・健康分野におけるICTの活用」の方針に基づき開発されたクラウド型遠隔医療システムを、心臓大血管外科等にて試験的に導入しており、この結果、急性大動脈疾患を発症して緊急手術を必要とする患者のバイタルデータやCT画像等の情報を救急車到着前に把握し、手術開始までの時間が大幅に短縮されている。

(運営面)**○ 病床稼働と連動した手術室の運用効率化**

平成28年度診療報酬改定を踏まえ、DPC（診断群分類包括評価）期間が短い入院患者について、週の初めに手術が可能となるよう週末に入院させ、休日における病床稼働率の向上に取り組むことなどにより、年間病床稼働率が86.7%に向上（対前年度比0.8ポイント増）するとともに、口腔外科による土曜手術の実施も含めた手術室の効率的な運用の推進により、手術件数が7,978件（対前年度比447件増）に増加するなど、効率的な手術実施体制が構築されている。